



日本福音ルーテル教会 北海道特別教区報

第40期第1号
2020年6月7日
発行者:小泉基

大切にしたいこと

教区長: 小泉 基

毎週のように Web 会議を経験しています。東京からも道内同士でも距離のハンデを感じている北海道のわたしたちにとって、これは有効なツールであると感じました。ZOOM 飲み会も何度か経験しました。九州や関西の友人たちと居ながらにして近況をわかつちあえるのですから、これまでにない新鮮な経験でした。函館教会では礼拝動画のライブ配信も続けています。恥ずかしいことこの上ないですし、なかなか慣れず失敗もあるのですが、それでも画面上に表示される「アーメン！」との応答の文字に、カメラの向こうにおられる信徒さん方の息づかいを感じることが出来ました。

コロナ状況下という新しい事態に直面して、これまでにない取り組みにもチャレンジしながら、教会も新しい教会に変化していかなければならない。それは確かなことだろうと思います。けれども教会というのは古い存在です。教区 40 年、JLEC 約 120 年、ルーテル教会約 500 年、イエスさまの時代から約 2000 年です。この教会の歴史の中で、これまでずっと大切にしてきたことがあるのです。

礼拝に集うこと。日々祈りを捧げること(主の祈りを毎日祈りましょう！当面次回常議員会 7/14 迄)。み言葉に聴き、聖餐に生かされること。食卓をわかつちあうこと。困っている人たちに手を差し伸べること。このようなキリスト者の習慣や伝統は、長い間繰り返されながら、わたしたちの教会や信仰の内実を形作ってきたのです。そうした永年の習慣すら揺らいでしまうような事態の中で、わたしたちのこれまでのやり方も問い合わせようとしています。社会全体が不安と危機感に直面しているこのような時だからこそ、わたしたちの信仰も問われてきます。この事態を越えていくために、教会は新しい習慣にも心をひらいていかねばなりません。けれども、教会が長年大切にしてきた事柄が変わってしまうわけではありません。その方法については工夫せねばならないでしょうが、やはり礼拝や、祈りや、み言葉と聖餐や、食卓や、隣人愛。このような大切にしたい事柄の根幹が変わることはないのです。新しい方法や習慣について、まだその道筋をクリアに見通すことは出来ません。けれども教会はこれまで越えてきましたし、これからも越えていきます。新しい教会になっていくプロセスをともに担ってくださる教区の皆さんと、そのあゆみを楽しみながらわかつちあっていきたいと思います。新任教区長へのお支えとお祈りを、どうぞよろしくお願ひいたします。

【函館教会の近況】

例年であれば、そろそろ大勢の遺愛女学院の学生さんたちが連れだって礼拝において下さる時期です。昨年はその中から 3 人の高校生が教会の群れに加わって下さいましたし今年も大いに期待していたところですが、コロナの影響を脱することが出来ず、いつもよりすこし少ない人数で礼拝を続けています。函館市内に感染者が報告された 4 月末のタイミングで 2 週にわたって会堂での礼拝を公開休止とし、Youtube による留守番礼拝のライブ配信を始めました。幸い 2 週間で再開することが出来ましたが、教会に来るのが難しい方々のために、ライブ配信を継続しています。早く全道・全国の教会が礼拝を再開できるようにと祈っています。

「礼拝録音 CD と在宅主日礼拝式文」、「説教原稿と週報」、「週報と主の祈り講解」配布などにも取り組んできましたが、なんといっても礼拝動画のライブ配信というのはまったく新しい経験です。函館から転居していかれた方から「ともに礼拝を守ることが出来た」という喜びの声が届く一方、Wi-Fi 環境がない方や、礼拝においてになれない年配の信徒さん方にはハードルが高かったりもします。宣言が解除されても、不安は払拭されませんから、礼拝への足が重くなってしまう方々もおられます。一足飛びの解決策はありませんから、ひとつひとつ祈りつつ取り組んでいきたいものです。 (小泉基)



【恵み野教会の近況】

恵み野教会は 3 月の第 1~3 週の礼拝を休止。その後、道内の感染者数の減少に伴い 3 月 22 日 (日) から礼拝を再開いたしましたが、4 月 12 日 (日) 復活祭の礼拝を最後に、再びの感染拡大の影響を考慮し 4~5 月いっぱいの礼拝の休止を決定しました。

恵み野教会では、礼拝休止中は毎週礼拝式文と説教原稿を配布しそれぞれの家庭での礼拝を守りました。郵送費もバカにならないということで、FAX が大活躍！FAX のないご家庭にはメールや郵送で送りました。また 5 月 17 日 (日) からは上記のセット

に加えて、教会員の近況報告 (と我が子の成長記録) を集めて牧師が編集したものを配布することにしました。しかし、ここで問題が発生！写真をたくさんいれた近況報告は白黒になってしまい FAX では意味がない！ということで、牧師が郵便屋さんとなり、車で各家庭にお届けに行くことになりました。とはいっても自粛期間中。ポストに入れるだけです。いずれチャイムを押して訪問できる日が待ち遠しいです。

恵み野教会がある恵庭市は花の街としても有名であることから、春の時期から街は花であふれます。今年は自粛期間中ということもあり、皆さん庭いじりに精を出したのか、例年以上に恵庭は綺麗な街並みです。恵み野教会でも教会員が、誰も礼拝には来られないにも関わらず、毎週花を生け変えてくれています。今私たちは自然の恐怖と向き合いながら過ごしていますが、自然はまた私たちにたくさんの恵みを与えてくれるものである。そのことを皆で共有しながら、再び集まれる日を心待ちにして過ごしています。 (中島和喜)



【札幌教会の近況】

北海道独自の緊急事態宣言が出されてからはや3ヶ月。札幌教会では、3月21日・22日～4月11日・12日のイースターまでは何とか礼拝が出来たものの、4月16日に全国を対象とした緊急事態宣言が出されてからは、再び通常の礼拝が出来ていません。教会の花壇は例年と変わらず春の花が咲き乱れているというのに、3つの礼拝堂はどこももぬけの殻。札幌礼拝堂に隣接しためばえ幼稚園からも、子どもたちの賑やかな声は聞こえません。教会や幼稚園で皆さんに会えないことは、本当に辛いことです。6月には教会の礼拝も幼稚園の保育も再開できることを祈っています。

この間、教会では信徒の皆さんのが家庭で礼拝が出来るようにと、牧師が週報や説教原稿を毎週郵送しています。毎回100通ほど発送するので私一人の手には負えず、家族に手伝ってもらっています。信徒の方々からお礼の手紙や葉書、電話やメールをいただけるのが大きな励みとなっています。また、5月の半ばからはオンライン礼拝にも挑戦。パソコンやインターネットが苦手な牧師に代わって、役員の皆さんが奉仕してくださっています。これまた感謝すべきことです。礼拝が行われない中、教会員の方々は様々な方法で献金もささげてくださっています。中には、おいしいパンやお菓子を携えて牧師館まで献金袋を届けてくださる方もおられます。札幌教会の皆さんのが篤い信仰と底力を感じています。（日笠山吉之）



【帯広教会の近況】

新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって、帯広教会でも役員会を中心に様々な対応を協議してきました。十勝管内で市中感染の広がりが見られればいつでも礼拝堂に集うことを中止する心構えと共に、普段よりも情報発信を密に行なうことを確認し、適宜対応してきました。あつという間に3ヶ月が過ぎ、振り返ると刻々と変化する状況と思うように動けないもどかしさの中で、手探りしながら迷走していた部分もあったように思います。

2月の教会総会では地震や水害などの災害対策について“教会としてどのように対応していくことができるだろうか？”と考え始めたばかりでしたが、感染症については全く意識していませんでした。誰もが想定外の事態に戸惑いながらもその時にできることを、できるだけ誠実に実施していくことで精一杯だったようにも思います。このような中で、消毒液やマスクなど必要なものを互いに融通しながら、礼拝堂に集える者たちは集いたくても集えない仲間たちを覚えながら祈りを合わせてきました。復活祭に教区から“ともに主の祈りを祈ろう”との呼びかけがなされたことにより、それぞれの場所で主の祈りを祈る度に祈りによってつながっている幸いをあらためて実感しています。

まだまだ気軽に出来ることでないで、教会の花壇や庭の整備に励みつつ記念誌の作成準備などを行っています。一日も早く安心して自由に往来できる日が訪れますように！（岡田薰）



教員会にも聞いてみました！

函館教会

○私は礼拝ライブ配信のお陰で、皆さまと一緒に教会にいる気分を味わい、喜びをもつて新しい1週間を始められています！感謝。(泉美和)

○主に感謝を。今、三浦綾子さんの新約聖書入門を読んでいます。なる程とか思いながら読み続けて家にこもってあります。主の祈りを毎日唱えています。(佐藤麗華)

恵み野教会

○我が家で不思議な事が起きました。聖霊が働き始めていると感じ、聖霊の記述がある40箇所ほどを拾い読みました。聖書をこんなに真剣に時間を気にせず読んだのは初めてです。(佐藤光子)

○牧師による「祈りの文書と説教原稿」を用いて、日曜日朝9時、夫と二人で家庭礼拝を守っています。今週は、教員会から寄せられた近況報告も載り励されました。(太田満里子)

札幌教会

○「スーパーのレジ待ちの列、毎夕の内食、ネットで視聴する他教会の礼拝、孤独な祈り、札幌教会のZOOM礼拝…、全ては神様の恵みと感謝しつつも日常への復帰を待ち望みます。」(田中真)

○「毎日徒歩通勤するようになって道端の花に目が留まり、心が癒されます。そのように感じられる位に、自分が今恵まれた環境なのだと思います。大変な状況の方々を覚え祈ります。」(楳尾幸絵)

○「他の礼拝堂や中島先生ご家族など普段会えない方々と共に過ごすzoom礼拝は恵みでした。普段以上に、与えられるみ声を聞き、み旨を感じて過ごそうと思います。」(井上聰)

○「礼拝もなくなり、私達夫婦が所属している讃美の合唱団も休会。気付かされた事がありました。私達の生活の中に、歌がない！それからは、毎日夫婦で日課を読んだ後、家庭礼拝はオルガン付き、二人で大声で歌っています。讃美歌は、祈り！神様感謝！！(渡辺真智子)

帯広教会

○高校生の孫のオンライン授業が始まりました。時代は進み、すごいことができることに日々感心している日々です。ぼんやりしてては駄目、常に学びなさいということでしょうか。(本間由喜子)

○受洗から50年、初めての家庭礼拝でした。戸惑い、寂しさ、新鮮さを味わいました。覚束ない手順、手探りで行い、最初は集中することができませんでした。2回目は比較的落ち着いて行えました。祈りの中ではお一人おひとりの会員の方々をより覚えることができたのは新鮮な喜びでした。(石田リツ子)

○今私は散歩が楽しくなりました。早歩きで5~6km。帯広の森ではエゾリス、ウグイスの鳴き声、草木の香りに癒されています。何より健康に良い感じです。自然に触れると神様が造られているものは素晴らしいと感謝の思いになりますね！(有働あけみ)

教区新常議員の皆さんです！

教籍動向（2月1日～5月31日）

函館教会

・転入・堅信 山崎雄祐さん (3月24日)

恵み野教会

・転入 藤井聰一郎さん (4月12日)

藤井真理恵さん (〃)

・召天 坂部能さん (5月29日)

札幌教会

・召天 今中澄江さん (4月1日)

